



# 「ツチガエル」



かの有名な松尾芭蕉の俳句「古池や蛙飛び込む水の音」の蛙とは句がうたわれた時期や場所などからツチガエル説が有力視されている。しかしもし本当にそうなら芭蕉にうたわれるほどのカエルなのに現代社会ではその外見からイボガエルと蔑まれ、「触るとイボができる」というデマまで流された揚句「クソガエル」などという失礼極まりないあだ名で呼ばれたり扱いが酷過ぎる。

ところが不人気な割に、その辺にどこでもいるありふれたカエルかと言えば北九州に限れば決してそうではない。紫川周辺でも西側の支流ではたくさんいるのにそこからほんの数km

しか離れていない東側の支流では今まで見た事がない。同じような環境に見えてもいる場所とない場所がはっきりしている。また田んぼのまわりにいたかと思えば沢沿いの登山道に現れたり、町中の小川にいたりちょっと神出鬼没なところがある。

場所を選ばないとなかなか出会えないところや何より世間様からは嫌われる独特のゴツゴツした質感が私的にはかなり好み。そこでもっとこのカエルの素晴らしさを世に広めるため、彼らに関する不思議な真実を他にも二つほど紹介しよう。

## 不思議その1 見よ!このポリューム感を!

こんな姿のままを越すことがあー!



日本本土のカエルの中で幼生(オタマジャクシ)のまま越冬するのは外来種のウシガエルを除けばツチガエルだけ!そしてこの越冬した幼生がびっくりするほど大きいカエルになりたての頃の大きさを比べると越冬しない幼生よりも大きいため、成体になるまでの生き残る確率も当然高くなる。しかし北九州市内ではこの越冬幼生をいまだに見た事がない。この写真の幼生は熊本県大分市で見つけたもの。

## 不思議その2 <ヘビが嫌う臭いを体から出す!>



昔から握むと独特の臭いを出すことが知られていたが、最近になってこの臭いの元がヘビに対する防御物質であることが判明。食べようと陸へても口内に広がるこの物質をヘビは嫌がりツチガエルを放してしまう。何度も経験するうちにヘビはツチガエルの臭いを嗅ぐだけで「食べられないもの」と学習し敬遠するようになるという。  
※マカガシに対してはこの臭いは効き目がないそう。

このように実はあの「イボガエル」はかなりの特殊能力を秘めた生き物だということがお分かりいただけたと思う。今まで「クソガエル」などと呼んでいた方たちも今後は彼らにも多少の敬意と知的好奇心を持って接していただければと思う今日この頃なのである。

# スタッフの飼育日誌

## “山椒魚な日々”

ちょうど昨今の頃は爬虫類展の準備で展示ケースを必死で作っていましたが、あっという間に一年が経ち、現在また新たな企画展の準備作業に追われています。

その企画展のテーマですが、ずばり「九州のサンショウウオ」です!「北九州の」ではありませんよ。「九州の」サンショウウオです!サンショウウオの魅力にとりつかれて以来いつか実現させたいと長年温めてきた企画が構想に二年、準備に三年、足掛け五年の歳月を掛け、様々な紆余曲折を経て遂に実現する運びとなりました。

九州には現在までに13種類ものサンショウウオの仲間が知られていますが、今回の企画展ではその内イモリとオオサンショウウオを除いた、サンショウウオ科サンショウウオ属の仲間、つまり正真正銘サンショウウオの中のサンショウウオと呼ぶべき9種類にスポットを当てます。「九州の九種類」とは何とも語呂の良い響きではありませんか。しかもそのうちの五種類は九州でしか見られない固有種なのです。これは是非とも市民のみなさん、いや九州中のみなさんに郷土の宝として紹介したいわけなんです。

ところでこの企画展に先駆け、実はわたくし北は長崎県の対馬、南は鹿児島県の大隅半島まで九州中を駆け回り、各地のご当地サンショウウオを探し求め旅してきました。しかし彼らと出会うまでの道のりは決して生易しいものではありませんでした。遥々遠くまで出掛けても必ず出会えるという保証はなく、何の成果も得られず帰って来ることだって度々でした。そうなれば交通費などの費用は全部パー! (泣)。またある時は探索中の山中で負傷し、途中リタイアせざるを得ず、激痛と悔しさで涙を流したことも(号泣)。サンショウウオを探すのはまるで自ら荒行に挑み耐えるかの様な行為なのです。だからこそ幾多の経済的、肉体的、精神的苦痛を乗り越え、サンショウウオとの出会いを果たせた時の喜びは何物にも替え難いものがあります。サンショウウオ探しに一度嵌まると抜け出せない理由がここにあります。

さあ汗と涙と感動と驚きに満ちたサンショウウオとの出会いの軌跡がいよいよこの春、水環境館にお目見えます。皆様、乞うご期待下さい!

# 水環境館だより 第67号

発行 | 平成29年2月26日

## 年末年始も水環境館は楽しいイベントで盛り上がりました!

12月23日(金)~1月16日(月) お菓子の家の展示



今年も西南女学院大学短期大学部生活創造学科の学生のみなさんが作ったお菓子の家の展示を行いました。どの作品も思わず足を止めて眺めてしまう出来栄です!甲乙付け難い作品ばかりですが見学の方にはどの作品が一番気に入ったかを投票してもらいました。果たしてその結りは?

1月15日(日)にはペーパークラフトとダンボールクラフトを使ったミニお菓子の家づくり体験が行なわれ10名の定員を超える13名の方が参加されました。

## 1月2日(月)、3日(火) こどもくじ引き



新春の恒例イベント、水環境館ガラポンくじ!今年一年を占う?くじ引き大会にたくさんのお子さんが参加してくれました。レバーを回すと出てくる赤いボールには一つだけ特賞の金色のシールを貼ったものが。皆さん特賞(水環境館オリジナルグッズ詰め合わせ)を狙って今年一年の運だめしに挑戦しました!

水環境館のガラポンは空くじなし!参加してくれたみなさん全員にほかでは決して手に入らない水環境館オリジナルグッズを差し上げました。